

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

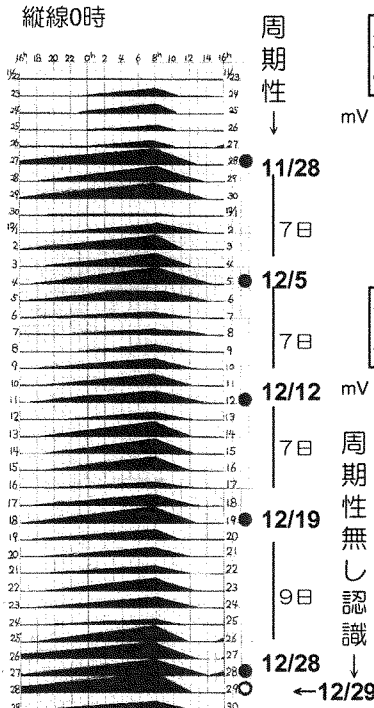
続報 No.320

2021.12/30 (木曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

現在 2022年2月15日±3 発生の可能性を検討中 但し未決定 少なくとも2月上旬以前に対応地震発生の可能性は否定可能

図1 CH15BTスケッチ 周期性無し=12/29の場合
CH9,17,29, (CH21)同期 平均周期=7.5日 → $12/29+(7.5 \times 6) = 2022.2/12 \pm 3$
左端、右端16時、
縦線0時



BTは周期性のある小ピークと周期性の無い小ピークが現われます。平均周期の日数の6倍値または9倍値を周期性の無いピーク日に加算すると、地震発生日±3日となる経験則があります。小ピークは出現継続時間が長い日です。

図2 CH29 12/27 00h~12/30 13h
終息 12/28.5の場合 → $2022.2/15 \pm 3$
極大 8/8.0

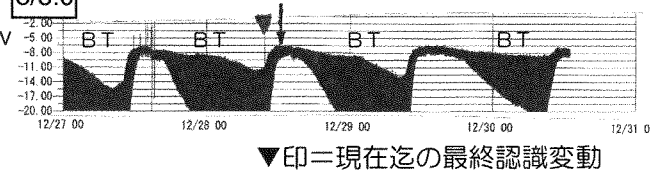


図3 K1 12/27 00h~12/30 13h
12/29.8終息の場合 → $2022.2/15 \pm 3$
極大 8/13.0

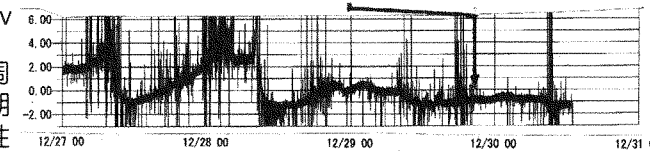
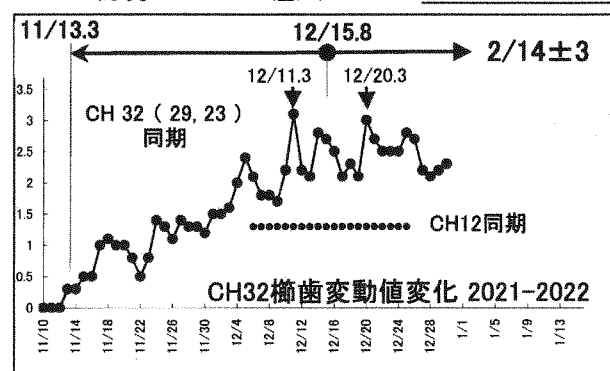


図4 CH32 楕歯変動値変化
初現 11/13.3—極大 12/14 = $2022.2/14 \pm 3$



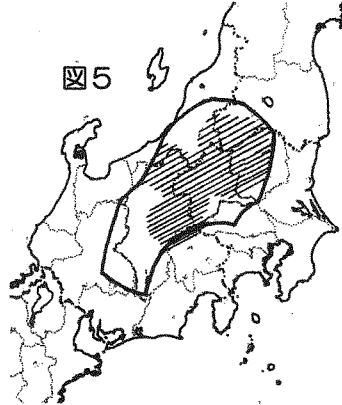
■図1は、11/24から出現した八ヶ岳のCH15 (CH9,17,29,顕著な時間帯はCH21も同期出現)の基線幅増大BTの日々のスケッチです。平均周期=7.5日、周期性のない小ピーク日は12/29の可能性と認識。平均周期7.5日の6倍値を12/29に加算しますと、 $2022.2/12 \pm 3$ 発生の可能性が示唆されます。ちなみに9倍値では $2022.3/6 \pm 3$ となります。

■図2は八ヶ岳のCH29特異。12/28.4に極めて微弱な変動があった後は静穏。12/28.5終息の可能性有。この場合は、 $2022.2/15 \pm 3$ 発生の可能性が示唆されます。太い部分はBT。

■図3は高知観測点K1特異。12/29.8以降は静穏基線のため、12/29.8終息の可能性有。この場合は、 $2022.2/15 \pm 3$ 発生の可能性が示唆されます。

■図4は11/13.3から出現した八ヶ岳のCH32 (CH23,29 顕著な時期はCH12にも同期出現)の楕歯変動(震源が浅い地殻地震特有の前兆変動)の変動値変化グラフです。初現11/13.3、極大は2つのピーク(ツインピークス型極大)の中心12/15.8認識。Tfap:Tmap=20:13 経験則から $2022.2/14 \pm 3$ 発生の可能性が示唆されます。

■以上の様に現状認識が仮に正しい場合には2022年2月15日±3日発生の可能性も否定できません。但し、CH29・K1の特異変動が1週間~10日以上再出現がないことが確認できるまでは、現在の推定は確定できません。今後の観測で発生日が修正される可能性もありますので、続報で報告させていただきます。



- ◆推定領域：図5太線内領域 火山近傍
斜線域=可能性考えやすい参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3
現状噴火前兆無し。現在近傍火山噴火考え難い
- ◆推定時期：2022年2月15日±3日検討中
変動再出現や上記を覆す認識の場合は修正
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生日時刻：AM 9:00±2 又はPM 6:00±2